

# 2023（令和5）年度決算について

学校法人大手前学園

理事長 福井 要

2023（令和5）年度学校法人大手前学園の決算は、有限責任監査法人トーマツ並びに監事の監査を経たうえで、2024年5月23日（木）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

## 【決算概要】

### (1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2023年度の決算は収入の部合計で、1億8百万円増の114億43百万円となりました。これは、学生生徒等納付金収入や資産売却収入などが当初の予想よりも上回ったことによるものです。

一方、支出の部では主として施設関係支出が当初の予想より下回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で8億37百万円の減少となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、9億45百万円増の30億24百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が10億66百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が1億39百万円の支出超過、一方でその他の活動による資金収支差額が10億33百万円の支出超過となりました。これにより、支払資金の増減額は1億6百万円の減少となりました。

### (2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は82百万円増の68億31百万円、事業活動支出計は1億75百万円減の64億29百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より2億58百万円多い4億2百万円の収入超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒納付金の増加により、55百万円増の65億95百万円となりました。一方で支出面は、主として教育研究経費や管理経費の減少により、1億73百万円減の62億79百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より2億28百万円増の3億15百万円の収入超過となりました。

教育活動外収支は、収入の部で受取利息・配当金が予算より上回ったことから、教育活動外収支差額は、21百万円収入増の81百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で現物寄付によるその他の特別収入等で6百万円増加したものの、支出面で資産処分差額が47百万円増となったため、特別収支差額は、41百万円支出増の7百万円の収入超過となりました。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、新棟建設に伴う建設仮勘定が2億86百万円増加したものの、建物等の減価償却により、47百万の増加となりました。

一方で、有価証券の購入を主因にその他の固定資産が4億93百万増加したものの、特定資産が7億92百万円減少したため固定資産全体では2億52百万円の減少となりました。

流動資産は、現金預金の減少等により31百万円の減少となりました。

結果として、総資産額では、2億83百万円減の414億79百万円となりました。

負債の部では、借入金の返済等により、負債合計で6億85百万円の減少となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して4億2百万円増の374億61百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より1.6ポイント増の90.3%となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上